



## SCHED コマンド

この章では、Cisco ONS 15454、ONS 15327、ONS 15310-CL、ONS 15310-MA、および ONS 15600 の schedule (SCHED) コマンドについて説明します。

### 22.1 SCHED-PMREPT-<MOD2>

(Cisco ONS 15454、ONS 15327、ONS 15310-CL、ONS 15310-MA、ONS 15600) 10GFC、10GIGE、1GFC、1GFICON、2GFC、2GFICON、CLNT、DIVIDEO、DS1、DV6000、E1、E3、E4、EC1、ESCON、ETRCLO、FSTE、G1000、GFPOS、GIGE、HDTV、ISC1、OC12、OC192、OC3、OC48、OCH、OMS、OTS、POS、STS1、STS12C、STS18C、STS192C、STS24C、STS36C、STS3C、STS48C、STS6C、STS9C、T1、T3、VC12、VC3、VT1、または VT2 の Schedule Performance Monitoring Report (SCHED-PMREPT-<MOD2>) コマンドは、回線ファシリティまたは Synchronous Transport Signal (STS; 同期転送信号) パスの Performance Monitoring (PM; パフォーマンス モニタリング) データを自動 REPT PM メッセージを使用して定期的に報告するように Network Element (NE; ネットワーク要素) をスケジュールまたは再スケジュールします。このコマンドでは、以前作成したスケジュールを削除することもできます。

#### 使用上のガイドライン

プラットフォーム別にサポートされる修飾子については、表 27-1 (p.27-1) を参照してください。

このコマンドによってスケジュールされた自動 PM 報告は、デフォルト設定で抑制されています。ALW-PMREPT-ALL を使用すると、NE は PM 報告を送信できます。INH-PMREPT-ALL を使用すると、NE が PM 報告を送信しないようにできます。NE に対して作成されたスケジュールは、RTRV-PMSCHED コマンドで検索できます。

自動 PM 報告のスケジュールを削除するには、NUMREPT パラメータを 0 にして SCHED-PMREPT-<MOD2> を発行します。



(注)

- 現在 NE に作成が許可されるスケジュールの最大数は、1000 です。すでにこの数のスケジュールが作成されている NE に、さらにスケジュールを作成しようとすると、エラーメッセージ「Reach Limits Of MAX Schedules Allowed Can Not Add More (スケジュールの最大許可数に達しています。これ以上は追加できません)」というエラーメッセージが返されます。自動 PM 報告を頻繁に使用すると、NE のパフォーマンスが著しく低下します。
- スケジュールに関連付けられたカードがプロビジョニングされていない場合、またはスケジュールに関連付けられたクロスコネクタが作成されていない場合は、スケジュールを作成できません。ただし、カードがプロビジョニングされていない場合、またはクロスコネクタが作成されていない場合でも、スケジュールの削除は可能です。

## 22.1 SCHED-PMREPT-&lt;MOD2&gt;

- スケジュールに関連付けられたカードがスロットに物理的に挿入されていない場合は、未処理 PM 報告カウンタ (NUMREPT) が減少しないので、スケジュールされた自動 PM 報告は開始されません。
- 期限が切れたスケジュールは自動的に削除されません。期限が切れたスケジュールを削除するには、NUMREPT パラメータを 0 にして SCHED-PMREPT コマンドを発行する必要があります。
- NE に同一のスケジュールは設定できません。同一の AID、MOD2 タイプ、パフォーマンス モニタ タイプ、パフォーマンス モニタ レベル、場所、方向および期間を指定すると、2 つのスケジュールは同一とみなされます。

既存のスケジュールと重複するスケジュールを作成しようとする、「Duplicate Schedule (重複するスケジュール)」というエラーメッセージが返されます。ただし、既存のスケジュールの期限が切れた場合 (RTRV-PMSCHED コマンドで検索されたときに NUMINVL パラメータが 0 のとき、つまり、それ以上 PM 報告が送信されないとき)、同一のパラメータを持つ新しいスケジュールが既存のスケジュールに置き換わります。

- 電気回路カードまたは光カードが DLT-EQPT コマンドによってプロビジョニング解除されたとき、または DLT-CRS コマンドによってクロスコネクタが削除されたとき、そのカードまたはクロスコネクタに関連付けられているスケジュールは、何の表示もなく NE によって削除されます。この削除によって、同じ AID を持つ別のタイプのカードやクロスコネクタが、その NE にプロビジョニングされないようにします。また、NE が既存のスケジュールに基づいて自動 PM 報告を送信するのを防止します。

カードやクロスコネクタは、CTC を介してプロビジョニング解除または削除できます。そのカードやクロスコネクタに関連付けられたスケジュールも、何の表示もなく NE によって削除されます。

- VT1 レベル スケジュールは光ポートに作成できません。VT レベルの PM はパスの終端ポートでのみモニタされます。
- ONS 15327 XTC カードでスケジュールを作成する場合、現用 XTC カード (スロット 6) のスケジュールだけが許可されます。スロット 5 の保護 XTC カードでスケジュールを作成しようとする、「Can Not Create Schedule On Protect Card (保護カードにはスケジュールが作成できません)」というエラーメッセージが返されます。

## カテゴリ

パフォーマンス

## セキュリティ

検索

## 入力形式

```
RTRV-PM-<MOD2>:[<TID>]:<AID>:<CTAG>::[<MONTYPE>],[<MONLEV>],[<LOCN>],
[<DIRECTION>],[<TMPER>],[<DATE>],[<TIME>];
```

## 入力例

```
SCHED-PMREPT-OC3:NE-NAME:FAC-3-1:123::60-MIN,15-30,100,,1-UP,NEND,,15-MIN,0-0-15;
```

入力パラメータ	
<AID>	アクセス ID (「25.1 ALL」 [p.25-2] を参照)。ヌルにはできません。
<REPTINVL>	報告間隔。報告が生成され、該当する OS (オペレーティング システム) に送信される頻度です。PM 報告を生成する頻度を指定します。形式は VAL-UN (VAL は有効な値、UN は時間の単位) です。UN が DAY であれば VAL は 1 ~ 31、HR であれば 1 ~ 24、MIN であれば 1 ~ 1,440 です。10-DAY、12-HR、100-MIN のように指定します。入力がヌル値の場合は、デフォルトで 15-MIN になります。REPTINVL はストリングです。
	(注) PM スケジュール処理は 5 分ごとに実行されます。このため、REPTINVL を 5 分以下に設定しても、最短の 5 分間隔で処理されます。
<REPTSTATM>	PM 報告の開始時刻。形式は HOD-MOH で、HOD (24 時間制) の範囲は 0 ~ 23、MOH (分) の範囲は 0 ~ 59 です。開始時刻の入力値が現在の時刻より小さい場合、たとえば、入力値が 5-30 (午前 5:30) で、現在の時刻が 10:30 の場合、報告は翌日の 5:30 に開始するようスケジュールされます。ヌル値の場合は、デフォルトで 24 時間制の現在の時刻になります。REPTSTATM はストリングです。
<NUMREPT>	スケジュールで作成される報告の数。既存の同一スケジュールを削除するには、0 の値を使用します。NUMREPT がヌル値の場合は、スケジュールは削除されるまで有効なままです。自動 PM 報告が抑制されている場合でも、NUMREPT の値は減り続けます。NUMREPT は整数です。
<MONLEV>	要求されたモニタ対象パラメータの識別レベル。スケジュールされた PM 報告のすべての MONTYPE に適用されます。入力がヌル値の場合は、デフォルトで 1-UP になります。MONTYPE はストリングです。形式は LEV-DIRN で、LEV の有効な範囲は 10 進数値、DIRN の有効な値は次のようになります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• LEV のレベル以上の値を持つ UP モニタ対象パラメータが報告されます。</li> <li>• LEV のレベル以下の値を持つ DN モニタ対象パラメータが報告されます。</li> </ul>
<LOCN>	特定のコマンドに関連付けられた場所。PM モードを検索する場所を識別します。入力がヌル値の場合は、デフォルトで NEND になります。FEND はどの MOD2 タイプでもサポートされません。パラメータタイプは LOCATION で、アクションが発生する場所です。
<ul style="list-style-type: none"> <li>• FEND</li> <li>• NEND</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• FEND アクションは、ファシリティの遠端で発生します。</li> <li>• NEND アクションは、ファシリティの近端で発生します。</li> </ul>
<TMPPER>	(任意) パフォーマンス カウンタの累積時間。デフォルトは 15-MIN です。パラメータタイプは TMPPER (パフォーマンス マネジメント センタの累積時間) です。
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 1-DAY</li> <li>• 1-HR</li> <li>• 1-MIN</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 1-DAY パフォーマンス パラメータ累積間隔: 24 時間単位。SONET PM データの場合、1 日分の履歴データだけが使用可能です。Remote Monitoring (RMON) 管理対象 PM データの場合、7 日間の履歴データが使用可能です。</li> <li>• 1-HR パフォーマンス パラメータ累積間隔: 1 時間単位。RMON 管理対象 PM データにだけ適用されます。24 時間の履歴データが使用可能です。</li> <li>• 1-MIN パフォーマンス パラメータ累積間隔: 1 分単位。RMON 管理対象 PM データにだけ適用されます。60 分間の履歴データが使用可能です。</li> </ul>

• 15-MIN	パフォーマンス パラメータ累積間隔：15 分単位。この累積間隔では、32 個の 15 分バケットの履歴データが使用可能です。
• RAW-DATA	パフォーマンス パラメータ累積間隔。カウンタが最後にクリアされたときから開始されます。RMON 管理対象 PM だけに適用されます。
<TMOFST>	<p>報告 / 診断 / 実行の間の時間オフセット。最後の累積期間の終了から <b>TMPER</b> で指定された累積期間の始めまでです。形式は <b>DAY-HR-MIN</b> で、<b>DAY</b> (日) の有効な範囲は 0 ~ 99、<b>HR</b> (時) の有効な範囲は 0 ~ 23、<b>MIN</b> (分) の有効な範囲は 1 ~ 59 です。ヌル値の場合は、デフォルトで <b>0-0-0</b> になります。このパラメータのグループ化はサポートされていません。</p> <p>指定した値がシステムに保存されている PM 履歴の最大長より大きい場合、PM スケジュールの PM 報告は生成されません。たとえば、OC48 の PM スケジュールが TMOFST の 2-1-0 (日 - 時 - 分の形式) で作成された場合、報告は生成されません。システムは 2 日分の PM 履歴しか保存できないからです。15-MIN スケジュールを設定すると、システムには 15 分のバケットが 32 個、つまり合計 8 時間だけ保存されます。このため、0-8-0 よりも大きいスケジュールの場合は PM スケジュールが生成されません。TMOFST は文字列です。</p>